



院長  
伊藤 真理子  
プロフィール

●(いとう・まりこ) 1986年山形大学医学部卒業。山大病院、篠田病院を経て2005年6月に真理子レディースクリニックを開業。日本産科婦人科学会認定産婦人科専門医。

真理子先生の

# 女性のミカタ

## 喫煙と妊娠

妊娠適齢期の女性で喫煙者の割合はどれほどなのでしょうか?

### 5%が妊娠後も喫煙

タバコの大幅な値上げもあって男女を問わず喫煙者の割合は低下の一途をたどっています。何と いってもタバコは毒。喜ばしい限りです。

ただ女性の場合、以前は年配の方が喫煙者のピーアクでしたが、昨今は20代から30代が多いのが気になるところです。

喫煙女性のほとんどが「妊娠したと分かつたら必ずやめる」とおっしゃっていますが、現実には約5~10%の人がその後も

喫煙を続けているとか。

### 虐待と同じです!

二コチンなど発がん物質は胎盤を通じて胎児に吸収されます。赤ちゃんにタバコをくわえさせる方はまさかないでしょ うが、妊娠さんの喫煙は胎児に吸わせているのと同じ。これは虐待です！

家庭や職場での受動喫煙も同様で、胎児に害が及ぶ率は多少減つても同じ異常を招きます。

### 具体的な悪影響は…

では具体的にどんな異常が生じるのでしょうか？ まず喫煙は妊娠初

期の自然流産にもつながりかねないほか、早産や発育遅延、分娩前に胎盤

が子宮内ではがれる「胎盤早期剥離」などが指摘されています。

喫煙によって酸素不足

が胎盤内ではがれる「胎盤早期剥離」などが指摘されています。赤ちゃんをとおいで将来に赤ちゃんをとおいておられる方は喫煙してはいけません。

このように喫煙は胎児

### 一刻も早く禁煙を

また口唇・口蓋裂、水頭症、無脳症、二分脊椎、尿路障害、心室中隔欠損、内反足・外反足といった先天奇形の原因にもなります。

先に述べた受動喫煙の弊害もあり、ご主人が喫煙されている場合はご主人にも協力してもらいましょう。職場などでの理解も求めたいですね。発がん性や催奇形性の漂う空間で赤ちゃんと迎えるのは可哀相。綺麗な空気の中で妊娠・出産を待ちたいものです。

